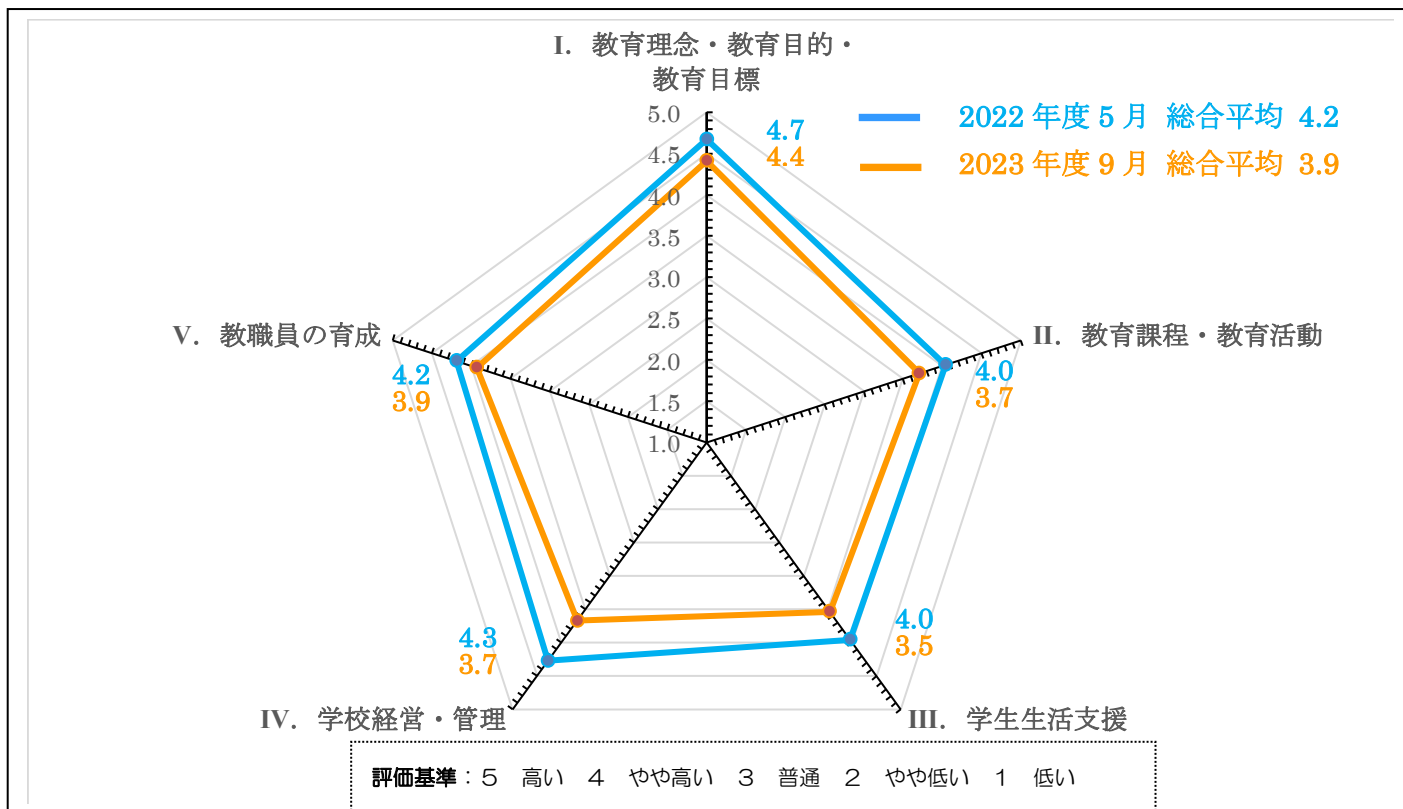


## 2023年度 学校運営 自己点検自己評価（2023年9月実施）



2023年度と比較し全体的に 0.3 ポイント低下している。要因として新カリキュラムが開始にあたり、大幅な教育内容・方法の変更があり、全ての教員が十分に対応できていないことや経験の浅い教員の育成が十分ではないといったネガティブな側面と、経験を積むことで課題が明確になってきたと言うポジティブな側面が考えられる。

**I. 教育理念・目的目標**：概ね良好である。

**II. 教育課程・教育活動**：外部講師、臨床指導者との連携・意思の疎通に課題がある。新カリキュラムにおける教育内容の周知徹底と実習指導者会議や外部講師との調整と連携強化を図っていく必要がある。

案：臨地実習あり方検討委員会の実施、外部講師への振り返りと事前打ち合わせの実施など。

**III. 学生生活支援**：現在、卒業生の追跡調査等は行われておらず、同窓会も形骸化していた為、卒業生との交流会の場も設けられていなかった。また、就職に関してはグループ内就職が多いと言う側面があるため、あえて学校が関与しないようにしていたことから、特に平均ポイント 3.5 と低い要因であると考えられる。また、学力に関しては年2度の成績表の送付や定期面接を行っているが、そのことが学生の自主的な学習を促していないとの評価になってしまっていると考えられる。入学生の学力低下が著しく今後もこの傾向は続くものと考えられる。

案：ティーチング中心の指導から場面ごとにコーチングを取り入れた指導の転換。授業（臨地実習含む）におけるリフレクションの強化

**IV. 学校経営・管理**：過去3年間のコロナ禍においては地域との交流の場であった学校祭や地域の清掃ボランティアが縮小したことが影響している。また教材教具が揃えられているといった評価に反して、予算計画の面で低評価となっている要因は、次年度に向けた予算計画が甘く、臨時の稟議が多いことが要因として挙げられる。

案：各学年・領域リーダー中心とした予算策定の実施、授業における地域との連携（地域・在宅実習等）

**V. 教職員の育成**：教職員の育成に関しては SD 研修の実施、個人研修の予算割り当てなど他校と比較しても遜色ない研修制度を持っていると考えている。また、教員採用に関しては臨床力を重視し教員経験を問わず、育成ありきで取り組んでいることが高評価になっていると考えられる。